

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2019年改訂、4月改訂版) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)北陸銀行 金山再開発PJ 新築工事	階数	地上9F
建設地	中区金山一丁目1307番1、1307番2、1308番、1309番1、1309番2	構造	S造
用途地域	市街化区域、防火地域	平均居住人員	130 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年8月 予定	評価の実施日	2025年7月30日
敷地面積	566 m ²	作成者	
建築面積	465 m ²	確認日	2025年7月30日
延床面積	4,072 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.2 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★	標準計算 30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆ ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1	LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.9 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.4 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2	Q のスコア= 2.8 LR のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 環境に配慮した資源を使い、安全で快適に過ごせる建物を作ろうとしている。	その他 特になし	
Q1 室内環境 居室面積に対して十分な大きさの窓を設置し、積極的な屋光利用がされている。	Q2 サービス性能 内装材には防汚性の高い材料を使用し維持管理の配慮をした。	Q3 室外環境(敷地内) 可能な限り緑地を配し、敷地内の環境にも配慮した。
LR1 エネルギー 設備システムの効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル リサイクル材を利用し、資源の有効活用に努めている。	LR3 敷地外環境 地球温暖化への配慮がされている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)北陸銀行 金山再開発PJ 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.7
LR1	エネルギー	3.9	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.090484052	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009048405	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045242026	
3. 循環型社会				3.4
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.7



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.4



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。